ひろば

Vol.124　2013.03.26. 発行
東京工芸大学同窓会
http://www.t-kougei.gr.jp
発行人：田沼　武能
〒164-8678
東京都中野区本町 2-9-5
TEL & FAX　03-5371-2732（事務局）

健全な工芸大同窓会であるために

東京工芸大学同窓会　会長
田　沼　武　能

先ず同窓会運営にあたっている理事の諸氏に深く敬意を表します。

私が会長に就任就任した2001年はほとんど同窓会の事業は停滞状態であった。支部再建が始まり、2006 年の第１回支部長会議には28 支部から参加、2009 年の第２回支部長会議には33 支部になった。現在は韓国支部が加わり34 支部になっており、昨年度は新潟で会議を開催できたことは喜びであった。

今年の３月には学位受与を受けた新同窓会メンバーが入会する。創立以来87 年間で約２万人の同窓会のメンバーになる。毎年卒業制作展を見るが、写真学科の他に映像学科、デザイン学科、メディアアート表現学科、アニメーション学科、マンガ学科と多彩な作品が並び、旧来の短大時代の卒業生には考えられぬ盛況ぶりで、若者たちのエネルギーに圧倒される。現代の他大学の芸術学部と比較しても劣らぬ学科構成になっている。

いま、同窓会長としての悩みは写真学科、映像学科以外の同窓生がなかなか会の運営に参加してもらえぬことだ。同窓会は全在籍学生から会費をいただいているので、写真関係ばかりでは運営することは心苦しい。新学科の卒業生はまだ若い。誰しも卒業して間もない時は「同窓会なんて、やっちゃいられない」と思っているだろう。しかし、ある年齢になると昔の仲間に会いたい。母校が懐かしく感じるようになる。その時に同窓会の存在が重要になると考える。

以前、早稲田大学の同窓会に招かれたことがある。マンモス大学なので全同窓会員を一堂に集めることはできない。10 年に一度の割合で全国規模の同窓会を開く。会場で「都の西北早稲田の森に…」と校歌が始まると全員の大合唱となり、その顔はかつての学生時代に戻り嬉々としていた。なにより早稲田大学を卒業した誇りが漲っていた。私は羨ましい思いでこの光景に見とれていた。いまの工芸大にはこれほど親しまれる校歌はない。さてどうすればこれに代わる学生時代の思い出になるものがないか考えさせられた。勿論、集まった同窓生たちは、各学科や期ごとに仲間たちと二次会を企画していた。

卒業した母校が立派な存在であることは同窓生にとって嬉しいことであり、その感動は年齢を重ねるほどに強くなる。

東京の校舎がある中野区に明治大学、帝京平成大学が進出して立派な校舎が建った。早稲田大学も国際学生寮ができる。以前、工芸大学もこの地に校舎を建てられないか調査研究をしたと聞く。7000 人の若者の町になるという。いずれにしても若者の人口が減少している現在、いろいろな意味で脅威になるのではないかと心配する。そのためには魅力ある大学であって欲しいと願う次第である。

2013 卒業制作展が開催されました！

2013 年２月 22 日～ 24 日の３日間、秋葉原駅前の UDX の３フロア（２階、４階、６階）にて『東京工芸大学卒業・大学院修了制作展 2013』が開催されました。

開場に先立ち学長から開会の宣言がされ、2013 年卒業制作展が開幕しました。会場は、昨年の経験を踏まえ、学科・コースごとにフロアと展示室を分けて配置したので来場された見学者やご父兄も目的の学科・コースを見つけやすく好評でした。週末の土曜、日曜日には多くの卒業生も来場し各所で盛り上がりを見せていました。今年度の来場者数は 4363 名でした。

卒業制作展 2013

写真学科
Department of Photography

映像学科
Department of Imaging Art

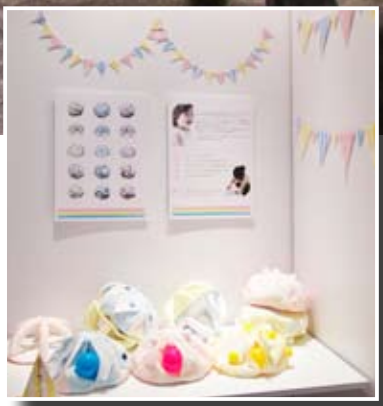
卒業制作展 2013

デザイン学科VC

Department of Design Visual Communication course

デザイン学科HP

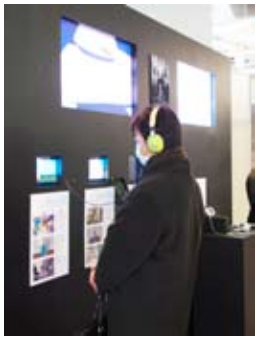
Department of Design Human Product course



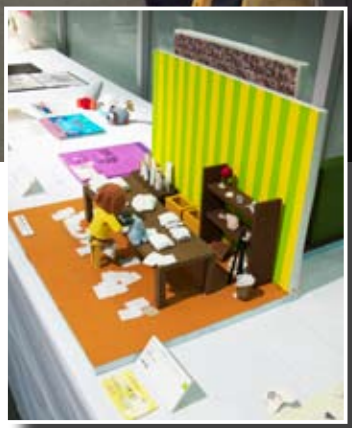
卒業制作展 2013

メディアアート表現学科

Department of Meia Art



アニメーション学科
Department of Animation　アニメコース



アニメーション学科

Department of Animation　ゲームコース

マンガ学科
Department of Manga

卒業にあたって

■写真学科■
野上　皆実

この４年間を振り返って、私にとって工芸大での学生生活が何を意味していたのか。おそらく５年後、10年後になってようやく分かることがたくさんあるような気がします。ただ、今私は、この４年間が「悩みながら、私という人間を再構築していく時間」だったのではと感じています。写真だけでなく、家族のこと、友人のこと、恋人のこと、今日のこと、明日のこと。それらを考えては、悩んで、悩んで、そして答えが見つからないまま布団に潜って、じっと朝を待つ。そんな日々を送りながら、私は自分なりの答えを探し続けてきました。悩んだ時間は、有り難いことに必ず自分を解放する力に変えてくれます。それはいつ訪れるのか分かりませんが、暗い部屋に暖かい光が差し込むように、その悩みから解き放たれる日がやってくるのです。悩むことは昔の私から一歩前進する証であり、自分自身をより強いものにしてくれます。

「悩めることは幸せなこと」と、私の家族はいつも言います。そう、この４年間、私は幸せな時間の中を泳いでいたのだと思います。

言葉のない写真から自分を知り、相手を知る。また、思いを言葉にすることの重要性を知り、今まで知らなかったコトバをたくさん耳にしました。写真を通じて人生の大先輩から助言を頂いたり、友達と最高の時間を共有したりして多くのエネルギーをもらいながら、私は今も「私という人間再構築」の途中にいます。４月から社会人になりますが、今までより、もっと大変なことが待っていると思います。でもきっとその経験が人生の肥やしになり、更に人間として大きく成長させてくれるはずです。そう信じて、最後まで諦めずに頑張りたいと思います。

最後に、私は、心からこの大学に入って良かったと思っています。工芸大、そして写真学科が大好きです。いつか工芸大に恩返しできる日が来たらなと思っています。

４年間、本当に素敵な時間をありがとうございました。

■映像学科◆
田中　瑛子

ここではないどこか、ここにはない何かをくれるもの。そんな映像が幼い頃から大好きで、それはわたしにとって、かけがえのない『夢』でした。

高校の頃、そんな『夢』を自分の手でも創りたい…そう考えるようになり、この学校の映像学科へ進学しました。

あれもこれもやってみたくて…、早く何かしたくて…。ぶ厚い参考書を片手に宝の持ち腐れの様なソフトを動かしてみたり…とにかくがむしゃらに突き進んでいたように思います。

しかし、いざ「自分の作品を創る」という時、「自分は映像で何がしたいのか？」ということがよくわからなかったのです。

心にあるのは漠然とした『夢』だけ…わたしにとっての夢とはなんなのだろうか？

そんな中、３年から始まった映像表現研究室のシナリオの授業。物語を創造する作業は自分やその周囲を見つめ直すことと繋がっているようで、わたしはそこでこれまで無意識につくりあげていた心の中の虚像と、『夢』の正体に気づかされたのです。

後悔もありますが、卒業を迎える今、映像学科での4年間は自分と正面から向き合えた、なにものにも代えられない大切な時間であったのだと思います。

■デザイン学科■
ビジュアルコミュニケーションコース
山本　晶子

私は幼い頃から自分は将来は画家になるものだと思い込んでおりました。高校生になっても同じ思いだったのですが、なぜか受験当時はデザインがやりたくなり、東京工芸大学を受験し入学しました。しかし、卒業するにあたって私は絵を描いています。結局デザインから離れ、絵に帰り着いたわけですが、私は東京工芸大学のデザイン学科に入学してよかったと思っています。絵画系の学校に進学するという選択もあったはずですが、他の道では今の自分の場所には辿り着けなかったと思うのです。そこで通り過ぎた岐路に執着することをやめることにしました。デザインもイラストレーションも絵画もクリエイティブなことに変わりはありません。各分野の垣根を越えて、様々な知識を得られたことは自身の重要な糧となっています。自分はやはり絵が描きたい。それしかないと確信することが出来ました。あとはその道を進んでいくだけだと思えるようになりました。

入学してから制作を進めていくにつれて、時間と比例して段々と自分の作品に自信が持てなくなってしまいました。自身の方向性を中々見つけられないまま大学生活の大半を過ご

してしまいましたが、卒業するにあたってその苦しんだ時間にも意味があったと感じています。技術や知識などのそのさらに奥にある自身の人格を形成する重要な時間だったのではないでしょうか。芸術に関して秀でた才能を持ち合わせていない私ですが、その代わりに自身の未熟さと闘いながら精神力や忍耐力を育てることが出来たと思います。

私は東京工芸大学の卒業生として、社会に出てからもそれに似合うような生き方をしたいと考えています。両親や先生方、友人達に感謝と尊敬の意をもって、自身の歩んできた人生を快く受け入れられるよう、堂々と生きるために、これからも責任を持って創作活動に精進していきたいと思っています。

■デザイン学科■

ヒューマンプロダクトコース

福田　悠

一人暮らし初日の夜の静けさは今でも覚えています。期待より不安の方が大きくて早々に実家に帰りたくなりました。そんな事も学校が始まってしまえば気にする暇もなく、気付けばORANGE で仲間と夜まで制作に没頭していました。とは言ってもその半分は仲間とふざけあっていたと思います。そんな時間も私達には必要で、またORANGE の素敵なところだと思います。次第に学外の活動でもHP の仲間と時間を共有することが多くなり、より強い存在になりました。

作品制作、プレゼンテーションを重ねるごとに各々個性がはっきりしてきて、感心したり、悔しがったり、誇らしげに思ったり。あらゆる感情の中で私達は成長してきたのだと感じます。仲間を見て、自分を見て、そして考える。自分のアンテナを四方八方に伸ばしながら。刺激を受けることの意味を実感する毎日でした。

もったいないと思える卒業を迎える事ができ、淋しさと嬉しさが入り交じっています。こんな気持ちになることができたことに感謝です。そしてこれからも宜しくお願いします。

■メディアアート表現学科■

藤村　海仁

私は高校時代、映像制作にとても興味を持っていました。けれども、その時の私には、ある問題がありました。それは、撮影の経験もなく、また、全くコンピュータに触れたことも無かったのです。もちろん、映像編集ソフトの使い方など知りません。

ですが、当時の私の決意は固く、映像制作を学び、絶対にそれをやっていきたいと考えていました。そして、この東京工芸大学に入学する事を決め、私なりに精一杯の準備をし、無事、入学試験に合格することができました。

入学するとさっそく、撮影機材やコンピュータの使い方を覚え、編集ソフトの仕様を知り、シナリオの勉強をしました。そして、周りに対して感じていた差を埋めるため、必死に学び続けました。

映像のことと並行して、教職課程も履修しようと、私は決めていました。大学在学中に出来ることをやっておこうと、考えていたからです。

課題なども多い専門課程の勉強に取り組むかたわら、平日の空いた時間と休日に映像作品を作り、土曜日には、教職課程の授業を受けるという日常を、三年間続けました。そして、四年生になった今年、ついに、入学時の目標であった、映像制作に関わる会社から、内定を頂きました。また、教職課程の学びも完了して、高等学校教諭一種（情報）の免許を取得することもできました。この時、私は、自身の積み上げてきたことの成果を実感し、先憂後楽を心がけてよかったと思いました。

この四年間に工芸大で得たことを糧に、これからも頑張っていきたいと思います。指導していただいた先生方に、この場をお借りして、感謝を申し上げます。

■アニメーション学科■

アニメーションコース

平川　侑樹

面白い仕事がしたい。その思いだけを胸に絵すらまともに描いたことのなかった僕は、無謀にもアニメーション学科に飛び込んでしまいました。それから４年が過ぎました。相変わらず絵は上達していませんが、春からは念願が叶い憧れの職に就きます。せっかく頂いた機会なので少し四年間を振り返ってみます。

一年生。アニメーションと出会いました。デッサンをするのも動画を描くのも全部初めての体験ばかり。ショートアニメーションが完成した時の喜びは今でも憶えています。

二年生。生涯の目標となる先輩と、3DCG と出会いました。CG を仕事にしていくんだと言う強い覚悟を決めました。

三年生。恩師とゼミの仲間達と出会いました。楽しい時、嬉し

い時、ほんのちょっと苦しい時。そのどれをとっても彼らと過ごした時間はけっして忘れる事のできない宝物です。

四年生。色んな人に支えられている自分に出会いました。就職活動に卒業制作。そのどちらもが未だかつてないほどの大きな試練で、挫折の日々。辛い時に手を差し伸べてくれた友人。いつも優しく正しい方へ導いて下さった先生方。親身になって相談に乗って下さったキャリア開発課の方。ここでは書きつくせないほど多くの人に支えられ、就職活動も卒業制作も最後まであきらめることなく、納得がいくまでトコトンやりつくすことができました。

思い返してみると本当に幸せで、夢のような四年間でした。多くの人と出会い、多くの人に支えられ、ひたすら制作のためだけに送ることを許された、とても贅沢で掛け替えのない時間です。

夢のような日々は終わりを迎え、これからはまた新たな夢に向かって邁進します。そしていつか作品を通して、お世話になったすべての方に恩返しすることができたらいいなと思います。

■アニメーション学科■
ゲームコース
馬渕　馨子

恐らく人生の中で最も濃厚な時間を過ごした４年間でした。いい意味でも悪い意味でも多くの経験をし、私の人生はガラリと変わりました。

中でも大きかったのが新聞奨学生としての生活。入学当時は自立して1 人で全てこなすのだと意気込んでいましたが、実際は想像をはるかに超えた厳しい生活となり、自立どころか多くの人に迷惑を掛け、助けられる結果となりました。アルバイトよりも会社に深く関わることで社会のドロドロした部分や、複雑に絡んだ社会構造を目の当たりにし、「働く」ということの意味とそれに伴う責任の重さをそれまでの自分は何も理解していなかったのだと気づかされました。自分なら出来るとタカをくくり甘く浅い考えで挑んだ結果、自惚れもいいところで結局他人に力を借りる羽目となってしまった。１人で全て出来る人など存在しない。本当の自立とは自分の身の丈を理解し、他人と助け合いながら生きていくという意味なのだとここで初めて知ることとなました。

もう1 つ大きな転機として、プライベートで悲しい出来事が重なり何も手に付かなくなった時期がありました。人生のどん底といえるほど落ち込んだ私がまた立ち上がれたのには、多くの人の支えがあります。急に連絡を絶って心配と迷惑をかけたのに、再び迎え入れてくれた友人。「いつかは誰もが経験する辛い出来事がまとめて降りかかってきただけ。後は幸せが来るだけだから安心しなさい。」と、励まし続けてくれた先生。何も考えたくなくないと逃げようとする度に「思考を止めるな、歩き続けろ。」という父の言葉を思い出させてくれた義姉…。

人は１人では生きていけない。誰かに支えられ、そして自分も誰かの支えになって生きています。人と人との繋がりは、人生でとても大きな力となることをこの４年で知りました。これからは、今までの私を支えてくれた人達のように、私も誰かを支える柱となれるように生きていきたいと思います。

■マンガ学科■
佐藤　有希子

大学生活がここまで充実したものになったのも、多くの人との関わりがあったからです。毎日一緒に笑い合い、時には真剣に作品を切磋琢磨した仲間達、サークル活動や課外活動で共に汗を流した先 輩と後輩、そして、常に我々を見守りながら導いて下さった、優しく厳しい先生方。この4 年間で本当にたくさんの人々と出会えました。辛い時には支えてもらい、良いことがあれば喜びを分かち合う、そんな毎日が幸せでした。

また、交流が広がることによって、様々な企画や活動に参加させて頂くこともありました。私なんぞが参加しても良いものだろうかと不安になることもしばしばでしたが、せっかくのお誘いに対して自分なりに全力で取り組んできました。町おこしのための冊子やパンフレットの作成、それに当たっての取材、子供達を対象にしたマンガ教室など、振り返れば貴重な体験ばかりです。仕事を成し遂げた時の爽快感は非常に心地良いものでした。

大学生活は、とにかく自由で楽しく、そして得る物の多かった、温かく素敵な時間でした。これからは厳しい社会の風に吹きさらされることになりますが、大学での想い出、出会った人々との絆を胸に、くじけず頑張っていきたいと思います。これまで私を支え続けてくれた仲間達、先生方、大学関係者の方々、そして家族に、心からの感謝を贈りたいと思います。大好きです。

第２回同窓会　韓国支部総会

제 2 회 동창회 한국지부 총회를 마치고

2011년부터 시작된 동문전시회가 올해로 3회째를 맞이하였습니다.

1회는 대학로 이앙겔러리에서 졸업생 11명이 참가하여 치뤄졌으며, 2회때부터는 한국지부로써정식발족되어 졸업생 8명, 재학생 1명, 일본에서는 하타선생님외 4명에 참가로 총 14명이 참가, 올해는전시장이 밀집되어 있는 인사동에서 졸업생 9명, 재학생 6명, 일본에서 하타선생님과 다치가와상이 참가하여 총 17명이 참가하여 2월 13일~19일까지 치뤄졌습니다.

총동창회측에서 작년에 이어 이또가상과 학교측에 이용욱 영상학과조교수님도 총회에참석해주셨습니다.

재학생에 참여를 유도하기위해 전시기간도 방학기간으로 조정하여 더 많은 재학생에 참여가이루어져서 기쁘게 생각합니다.

첫 전시회를 계획하면서 기존 회원간에 친목 및 졸업하고 귀국하는 후배들에게 자연스럽게동창회에 참여할 수 있는 기회를 만드는 것과 조금이나마 힘이 되어주고 싶은 마음이었습니다.

제가 귀국한 99년에는 선배님들이 계신지도 모르는 막막한 상황을 기억하는데, 제 이후에동문들도 저와 같은 마음이 있었으리라 생각되어집니다.

재작년부터는 네이버카페에 '동경공예대학 예술학부 동문회'를 새롭게 시작하여 재학생과에 커뮤니케이션도 원활해져가고있습니다.

앞으로는 이런 전시회가 사진만이 아닌 영상, 디자인과 같은 다른 학과의 졸업생들도 함께할수 있기를 간절히 바라는 마음입니다. 많은 관심과 노력을 아끼지 않은 동문 여러분과총동창회측에 감사에 마음을 전합니다.

도쿄공예대학 동창회한국지부장 한 승 탁

＜翻訳＞第２回同窓会韓国支部総会を終えて

2011年から始まった同窓展示会が今年で３回目を迎えました。

１回は大学路（テハンノ）にあります、イアンギャラリーで卒業生11人が参加して行われました。２回目から正式に韓国支部が発足されて卒業生８人、在学生１人、日本からは畑先生他４人の参加で総14人が参加、今年は展示場が密集している仁寺洞（インサドン）で卒業生９人、在学生６人、日本からは畑先生と立川様が参加、総17人が参加して２月13日から19日まで行われました。

同窓会からは昨年につづき糸賀様と映像学科の李容旭准教授も総会に参加されました。

在学生の参加を誘導するために展示期間を春休みの間で調整しました。それによってより多くの在学生の参加がありましたこと、大変うれしく思っております。

初めに展示会を計画しながら既存の会員同士の親睦および卒業して帰国する後輩に自然な形で同窓会に参加できる機会を作ることで微力ではありますが力になってあげたい気持ちでした。

私が帰国した99年には先輩がおられたのかどうかも分からない広くて果てしない状況であったことを思い出します。私の後輩らも同じの気持ちであったでしょう。

一昨年からはインターネットのコミュニティーであります「ネイバーカフェ」に「東京工芸大学同窓会」を新しく始めて在学生とのコミュニケーションも円滑になりつつであります。

これからはこのような展示会が写真だけではなく映像、デザインなど他の学科の卒業生も共にできることを切実に望みます。　多大な関心と努力を惜しまなかった韓国支部の諸君と同窓会のみなさまに御礼を申し上げます。

東京工芸大学同窓会韓国支部長　韓 承卓（73期）

会場となっているGana Art Spaceのある建物は仁寺洞（インサドン）の中心街のほぼ北端にあり、作品の展示会場には同窓会の文字の入った横断幕が掲示され、若いみんなの作品が展示されている。こうしてソウルまで来て見ると、卒業生の大学への気持ちの表れが強く感じられる。

私が始めて仁寺洞に来た時は主として比較的小さな店が並んでいたが、今はそれらの建物が集合体として整理をされ、次第に比較的大きな建物が並んで行く様に思え、韓国の文化的な味が集まっていると感じられる。

会場での支部総会終了後場所を替え、楽しい集まりとなり、さらに二次会となり、ソウルの夜が更けていった。昨年もそうであったが、韓国支部のメンバーが若いということ、そして様々な仕事をやっており、各々が新しい作品作りに意欲を持っていること。同窓会としての新しいスタイルの存在が感じられた。

この度の支部総会にご協力を頂いた李先生には感謝をすると共に、これからも韓国支部への繋がりをお願いできればと思う。

韓君の文の翻訳は李先生にお願いしました。有難うございました。

畑　鐵彦（41期）

同期会だより

■工業科30 期卒
“旅の30 会”北陸：山中温泉に集う～

山中温泉 “よしのや依緑園”にて
平成24 年11 月８日～９日
後列→加藤、古屋、今村、河相、貝塚、長谷川
前列→大澤、曽根、福岡、藤森

平 成24 年11 月８日、私たち“旅の30会”は、山中温泉：老舗の「よしのや依緑園」に集合する。即ち、千葉・埼玉・東京・横浜・新潟・名古屋・そして大阪・兵庫から、それぞれＪＲ加賀温泉駅前に集合し、迎えのバスで宿泊する旅館へ！　１年ぶりの再会或は数年振りの人もいてバスのなかは青春学生時代にタイムスリップして大賑わい…、夜の「宴」は云うに及ばず盛会でした。

ただ、前年に幹事を務めてくれた小日向　修氏（10 月）と千葉む津子氏（８月）が黄泉の国へと旅立たれたため、二人のご冥福を祈っての懇親会でした。なお、今回は「喜寿」を越えての健康に感謝し、もう１泊することに相成り金沢を北上して、延々８キロもの砂浜海岸で名高い羽咋の“休暇村能登千里浜”にて２日目を楽しむ。食膳には11 月６日漁解禁で捕れ々々の香箱蟹・ズワイ蟹が添えられ、会話を忘れての美味・舌鼓で英気を養う。

冬支度を終えた兼六園にて

さて、毎年開催するこの「旅の会」の名称由来は、工業科30 期卒業生を主としていますが、技術科卒業の方々の参加もありますので、～旅をして親しく交流を深めよう！～と云うことで“旅の30 会”と名付けたものです。

始まりは還暦を機会に、“京都の集い”からスタートしました。以来、世話役を交代しながら重ねること10 数回になります。

「ひろば」への登場機会は時折なので、この機会に名称の由来と合わせて、30 期卒業の方々のご参加歓迎のお知らせを致します。

記　福岡　武雄（30 期）

■34 期・写真工業科・同期会

毎年12 月の第２土曜日を同期会の日と定め、以来絶えることなく開催してきた結果、何んと31 回目（30 年目）を数えることとなりました。

当時40 歳代で現役バリバリだった同期生も、今では後期高齢者への仲間入りです。同期の仲間は53 名でしたが、今回の参加者は15 名で、11 名の故人を除き、欠席理由の多くが体調不良とのことで、いささか気になる処ではあります。

それでも一同に会せば、昔話しに花が咲き、学生時代の気分や元気さが蘇る…これが同期会の良い点でもありましょう。今回は、金子隆幸君が幹事役を担当しましたが、開催会場の「NHK 青山荘」に選び、また参加者の便を配慮して、開始時刻を午後２時に設定し、楽しいひとときを過ごしました。

なお、平成25 年の同期会は、第２土曜日の12 月14 日に開催します。同期生一同、その日に向けて体調を整え、大勢の出席を期待したいものです。

記　川名　晴美（34 期）

写真工業科第34 期生　同期の集い
NHK 青山荘　平成24 年12 月８日

■43 期会

私たち 43 期会は、２月 16 日同期会を、開催しました。1988 年の第１回より始め今回で５回目の開催です。今回は、卒業 45 年、前期高齢者の仲間入りを祝う会としました。

なお、今回の同期会は、恩師、同期生を合わせて約 50 名の参加者でした。まず、新校舎の新しい設備等を見学しました。過去の東京写真大学のイメージは残っていませんが、素晴らしい環境でした。

見学終了後、芸術食堂ルネッサンスにて懇親会が、行われました。恩師、加藤春生先生の乾杯に始まり、スライドショー、ゲーム、同期生近況報告などが、行われました。

約３時間、恩師、同期生共に 45 年前に戻り、盛り上がったひと時となりました。

●今回の同期会写真は、下記のアドレスで、見られます。
URL：http://00.ips.fdine.fujifilm.co.jp/9992718443/shadaisadai43
パスワード：43dokikai（すべて英数半角文字です）

記　淤見　敏樹（43 期）

ひろばのページ

写真の少女 47年後の手紙

新年早々に届いた一通の手紙に、写真家の飯島幸永さん（70）は胸が熱くなった。47年前に撮った少女からの便りだった。

手紙の主は新潟県魚沼市穴沢に住む村山あき子さん。当時12歳だった女の子は59歳の主婦になっていた。小学6年生の村山さんの姿は飯島さんが昨年10月に出した写真集「寒流」（彩流社）に載っている。髪を後ろに束ねた聡明そうな少女。目がきらきらしている。

飯島さんが豪雪に閉ざされた新潟県人広瀬村の芹谷内集落に入ったのは昭和41年（1966年）の冬。山あいに10軒ほどの家があった。23歳の駆け出しカメラマンは泊まり込み、過疎の村でたくましく生きる人々を撮った。

高度経済成長期のまった中だ。飯島青年は一繁栄とは無縁の厳しく質素な暮らしの中に、日本の原風景が残っているはずと思った。人広瀬の人たちはみんな穏やかで親切だった。

地元の本屋さんに「写っているのは『あなたではっ』」と言われ、写真集を手にした村山さんは「あのときの若いカメラマンさんだ」とすぐに分かった。アップの写真は冬だけ通った、分校のそのまた分校の授業風景。父母も姉妹も村の人たちも写っていた。懐かしくて泣きそうになった。

「貧しい生活でしたが、周りの環境も自然も大好きでした。写真集を眺めていると、心がほかほか温かくなった。先生に感謝の思いを伝えたくて」。電話をかけると、村山さんは元気な声で話してくれた。

芹谷内の集落は山の麓に近い穴沢に集団移転し、入広瀬村は町村合併で魚沼市になった。飯島さんは「雪が溶けるころ、久しぶりに訪ねて、改めてお礼を言おうと思っている。

（編集委員　中沢義則）

イラスト・平野　恵理子

うたた寝

ソテツ（蘇鉄）　暖かい地に自生するソテツ科の常緑低木。植栽や鉢植えで観賞用に栽培される。

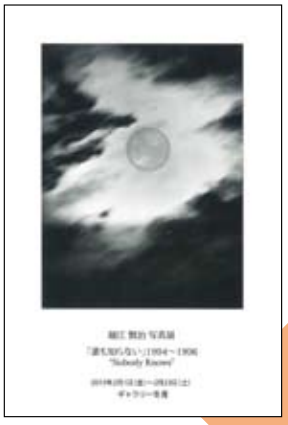
飯島幸永写真集「寒流」
2012 年 10 月 30 日発行
発行所：(株)彩流社 ☎ 03-3334-5931
飯島幸永（39 期）

寒　流 飯島　幸永著

フードからのぞくまなざしがあどけない少女。青函連絡船から海峡を見つめる若い女性。角巻姿で雪道をゆく妙齢の婦人。雪国の女性の姿には、寒風に耐えて磨かれた強さと気高さ、そして切なさが同居している。

昭和40～50年代、ベテラン写真家がまだ若いころ、雪深い山間地に暮らす人々や津軽に生きる女性たちを撮影した写真集。凛とした空気をも写し取ったような緊張感が作品にみなぎっている。（彩流社・5500円）

Recommnend 展　2013
2013 年３月２日～３月４日
ニコンサロン biz 新宿
新宿区西新宿 1-6-1
新宿エルタワー 28 階



細江賢治写真展
「誰も知らない」1994 ～ 1996 “Nobody Knows”
2013 年２月１日～２月 23 日
ギャラリー冬青　中野区中央 5-18-20
細江賢治（59 期）

＜事務局からのお願い＞

◆住所を変更された方はご連絡ください。

連絡方法：事務局の名簿係宛に　はがき、FAX でお願いします。同窓会ホームページからも手続が行なえます。住所、FAX 番号、ホームページアドレスは巻頭右上にあります。

◆同窓会誌の他、校友会誌。学友会誌、自治会誌等も収集、保管することにしました。以下の会誌を所蔵されている方はご一報ください。

■ 同窓会誌

●東京寫眞學士會会報
創　刊　號　昭和３～４年発行　冊子

●東京寫眞學士會　パンフレット
第十三號　昭和７～８年発行　冊子

●東京寫眞學士會　パンフレット
第貳拾六號　昭和 14 年発行　冊子

■ 校友会誌

●向日葵　東京写真専門学校校友会発行
創刊号～１６号　冊子

●はたがや　東京写真専門学校校友会発行
昭和１２年以前　冊子

●はたがや　東京写真専門学校校友会発行
昭和１５年以降　冊子

■ 自治会誌

●えんとつ　東京写真大学短期大学部自治会
２～９号　昭和 48 ～冊子

連絡方法

所蔵されている同窓会誌、校友会誌、自治会誌、お名前と電話番号をご記入の上、同窓会事務局に、FAX または email を入れてください。事務局の担当（木村）から後日連絡させていただきます。

FAX：03-5371-2732
メールアドレス：kimura@t-kougei.gr.jp

中野キャンパス今昔

下の写真とほぼ同じ位置から見た現在の様子。
右奥は図書館。

上：新1 号館2 期工事完成校舎屋上から。矢印は新3 号館。
下：旧２号館屋上から撮影。本館右手前の小さな建物は用務員さんの住居だった。

正門側から撮影。旧本館の後方は昨年秋に解体された旧１号館。右側、電話ボックスの後方は、旧３号館、その後ろは1970 年に建てられた旧２号館。

昨年秋から始まった中野キャンパス・リニューアルは、最後の第３期工事が着々と進んでいます。現在は土台の工事中ですが、40 数年前の旧２号館工事の時のような大きな騒音もなく、工事方法の進化を感じます。

昨年のカミングデーの際、ちょうど旧１号館および新本館を解体していたのですが、古い同窓生からは「我々の学生時代には解体中の建物は既に無かったので感傷はない」という話がありました。私は 1970 年から在職していて、木造の旧本館等、校舎の変遷を記録していましたので、30 数年前の姿をお見せします。カラー写真は 2013 年２月 28 日に、モノクロ写真は 1977 年１月 14 日と 17 日に撮影。

写真と記：福村　敏　（45 期）

訃　報
（敬称略）

木　野　　渉	（第23 期・写真工業科）		波左間　慶　介	（第33 期・写真技術科
保　積　善三郎	（第23 期・写真工業科）		嶋　村　次　夫	（第40 期・写真技術科）
岩　本　悦　二	（第24 期・写真工業科）		長　畑　正　徳	（第45 期・写真応用科）
赤　坂　定　治	（第28 期・写真工業科）		内　藤　　裕	（第54 期・写真技術科）
千葉（小杉）む津子	（第30 期・技術科）		富田（木幡）由子	（第65 期・画像技術科）

編集後記

昨年７月より、同窓会誌のデジタル化の作業を始めました。現在、同窓会誌の収集、整理を行なっております。事務局には残念ながら、全資料が揃っている訳ではありません。会員の皆様に「ひろば　Vol.123」でご協力をお願いしましたところ、多数の会員から同窓会誌のほか、校友会誌、学友会誌などをお送り頂きました。「大切な資料を寄贈して頂きましてありがとうございました」この場をお借りしまして御礼申し上げます。まだ、写専時代の資料が不足しております。いつでも閲覧出来るようにするには、原本保存用のほか、複写用、原本閲覧用の各３部が必要になりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

サロンで、白髪の同窓生と学生、数人の同窓生がコーヒーを飲みながらお話している。また、高校生のお孫さんを連れたお爺さんが自分の卒業した学校のことを自慢げに話をしている。**ギャラリー**では、数人の同窓生が２・３点自分の作品を持ち込み、学生に説明をしている。**ミーティングルーム**では、10 数名の同窓生と学生が何やら真剣にディスカッションをしている。**ワークショップルーム**では、数人の同窓生と学生が教授の指導で写真の修復作業のトレーニングを行なっている。同窓生から寄贈された著書に囲まれた**閲覧室**では、同窓会誌や学友会誌などを懐かしそうに読んでいる人がいる。このような同窓生と在学生の交流が盛んで、同窓生がゆっくり１日と過ごせる**同窓会室**を夢見ながら、同窓会誌、学友会誌、自治会誌などの学生時代の資料を整理、スキャナー作業をしております。

広報委員　木村　政夫（38 期）